

めでいかすとり
Médicastre



「 精霊流しの浜辺 」

鶴岡地区医師会

23年 8月号

医療学術懇話会抄録



期 日：平成23年7月14日(木)
場 所：ベルナール鶴岡

『循環器医が治療する糖尿病』

小倉記念病院 循環器科 横井宏佳

糖尿病患者のPCI後の予後が不良である事が知られているが、その要因として糖尿病患者はPCI施行時にすでに動脈硬化が冠動脈全体にび漫性に及んでいる事が挙げられている。糖尿病患者の動脈硬化の進展はインスリン抵抗性を基盤とした軽症糖尿病や耐糖能異常の時点からすでに始まっており、糖尿病未診断のPCI施行患者に積極的に糖負荷試験を行い、糖代謝異常の早期診断を行えば、糖尿病もび漫性動脈硬化に進展する前に、より早期にとらえる事が出来、糖尿病患者のPCI後予後改善に繋がる。

薬物療法として空腹時血糖やHbA1Cを管理するのみでは大血管イベントが低下しない事が大規模試験（ADVANCE試験、ACCORD試験、VADT試験）より明らかとなっている。STENO-2試験は血糖の管理のみならず厳格な血圧、脂質管理が糖尿病患者の心血管イベントを低下させる事を報告した。すなわち心血管イベントを低下させるためには糖尿病患者で多くみられる不安定プラークの安定化治療が必要となる。薬物療法としてはStatin、ACE、ARB、抗血小板薬、CCB、 β 遮断剤などが挙げられるが、血糖を改善する薬物としてインスリン抵抗性改善薬と食後血糖改善薬が重要である。

インスリン抵抗性改善薬であるチアゾリジン薬（PPAR γ アゴニスト）は、血中インスリン濃度を高める事無く血糖低下させる効果を有し、インスリン抵抗性改善作用はビッグアナイド薬よりも強力である。この他に血管壁やマクロファージに直接作用して抗炎症、抗増殖、PAI-I減少作用を有することが知られている。この血管壁

に対する直接作用はPCI後の再狭窄予防のみならず、statinの様なプラーク安定化作用が期待され、PCI後長期予後に影響を及ぼす糖尿病患者の新規病変の出現や不安定プラーク破裂による新規心筋梗塞発症を抑制することが期待される。食後血糖改善薬 α -GIは食後高血糖を抑制することにより、血管内皮機能低下を抑制しプラーク安定化作用が期待されるが、消化器系の副作用や、1日3回服用のためアドヒアランスが低下することが問題であった。

このような状況の中で新しく登場したインクレチン製剤（GLP-1, DPP-4）は低血糖や体重増加を誘発すること無く、食後高血糖、高インスリン血症を生じる事無く血糖を低下させることが可能であり、プラークの安定化作用が期待される。また、心筋、血管に対する保護的作用も報告され、糖尿病を有する循環器病患者には大きな福音となる可能性すらある。

PCIは冠動脈の狭窄部に対する局所治療であり、CABGと同様の長期予後改善効果を獲得する為には非狭窄部のプラークの安定化が重要である。飽食と運動不足の現代社会において、インスリン抵抗性、食後高血糖を基盤とした糖代謝異常がプラークの不安定化、プラーク破裂による急性冠症候群の発症に深く関与している。循環器医も軽症糖尿病の病態をよく理解し、DES（Drug-Eluting Stent）のみならず、積極的にもうひとつのDES（Diet、Exercise、Stop smoking）及びエビデンスのある薬物療法を実践していかなければならない。

期 日：平成23年7月8日(金)
場 所：東京第一ホテル鶴岡

病院勤務医と医師会との懇談会

勤務医委員会 石 原 良

今年で第5回目となる病院勤務医と医師会との懇談会が7月8日に東京第一ホテル鶴岡で開かれました。

出席者は医師53名の参加で、内訳は開業医：20名、荘内病院：29名、鶴岡協立病院：4名となりました。

第一部は、話題提供としてはじめに三原一郎先生に“在宅医療拠点事業について”の演題で講演して頂きました。南庄内における在宅医療の現状の分析と全国から200ほど応募があった中で10か所の一つに指定された在宅医療拠点事業についてのお話がありました。続いて4月から鶴岡協立病院院長に就任された堀内隆三先生から“鶴岡協立病院の現況について”の講演があり、鶴岡協立病院の現状とポジショニングをどう考えているのかなどのお話がありました。

第二部は荘内病院院長三科武先生の乾杯で懇親会が行われました。4月から荘内病院に赴任された先生の自己紹介などで和やかな時間が過ごされ、最後に湯田川リハビリテーション病院院長竹田浩洋先生の締めでお開きになりました。その後は二次会に行かれた先生方も多数いたようでした。

当地区の医療連携にとって病院勤務医と医師会との顔の見える関係は大切と思います。来年も引き続き開催する予定ですので話題提供などについてご要望がありましたら、事務局まで連絡頂ければと思っております。





新 荘内地区健康管理センター竣工祝賀会

期 日：平成23年7月10日(日)
場 所：グラント エル・サン

新荘内地区健康管理センター竣工祝賀会が、7月10日グラントエル・サンにおいて、来賓・会員・職員総勢138名の出席のもと、盛大に開催されました。

祝賀会が始まる前に、新センターの見学会を開催したところ37名の来賓の方々からおいいただきました。祝賀会会場では職員が作成した新健診センター・新医師会館の紹介DVDを放映し、完成するまでの軌跡をスライドでご報告いたしました。

午後3時から三原副会長の開会に始まり、中目会長の挨拶後、荘内地区健康管理センター新築・医師会館改修工事を請け負っていただいた梓設計・吉田建築設計共同企業体様、鶴岡建設・石庄建設特定建設工事共同企業体様、山形空調(株)様、東北電機鉄工(株)様、(株)マルゴ様へ感謝状と記念品の贈呈を行いました。

ご祝辞は、加藤紘一衆議院議員、榎本政規市長、有海躬行県医師会長（代理出席 栗谷義樹副会長）よりいただき、鶴岡放送児童合唱団の皆様からはお祝いの合唱をご披露していただきました。その感動の中、本間清和酒田地区医師会長（代理出席 佐藤顕副会長）からの乾杯のご発声で祝宴に入りました。

会場は終始なごやかな雰囲気、建設時の苦労話や、これからの健診の構想や課題などを話題にしながら、ご歓談いただきました。

私は、この度の新築・改修工事に「準備室」として、計画・用地取得・基本設計・実施設計・本工事、そして完成に至るまでの約5年間係ら

せていただきました。300回を超える打ち合わせは血圧が上がりっぱなしで、自分の性格が悪くなったような気になりながらも取り組んできました。しかし、当センターは昭和59年に会員の先生方が設立してくださった、しっかりとした土台があったことや、行政と医師会の連携がうまくとれていたこと、建設委員会の役・職員はもちろん、多くの先生方のご理解とご協力があったことで、最終的には大過なく完成を迎えられたと思っております。また、基本設計の段階から多くの職員が参画したためか、出来上ってから「こうすれば良かった！」（反省）という声はあっても「こうして欲しかった！」（批判）という声が少なく、職員が置かれた環境の中、自分達で何とか改善しようという場面が各所で見られ、冷静に粛々と取り組んでくれたことが今回の大きな収穫でした。また、職員にとってもそれぞれがいろいろな意味で自信に繋がったのではないかと思います。

皆様のお陰を持ちまして、ハードは完成いたしました。これからも「地域住民の健康を守る」という意識を持って関係機関と共に連携を図り、ソフト面でもハードに負けることのないよう研鑽を続けていく所存ですので、今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。

それでは、祝賀会の様子をスナップで…

（事務局次長 御橋 慶治）





第20回 医師会納涼ビアパーティー

期 日：平成23年8月5日(金)

場 所：グランド エル・サン

去る8月5日(金)、夏の定番となっております医師会納涼ビアパーティーをグランドエル・サンにて開催いたしました。

今回で第20回を迎え、320名を超える参加者となりました。会場には『ワールドグルメクルージング』のテーマにより、多種多様な料理・デザートをご準備いただきました。

福原晶子先生のパワフルな開会挨拶、中目千之先生のユーモア溢れるご挨拶、続いて伊藤末志先生より乾杯のご発声で、宴の開始となりました。

始めに、新人職員によるステージを日一杯使用した迫力あるパフォーマンスが披露され、ステージ前には先輩たちが応援団として駆けつけて、たいへん盛り上がりました。大抽選会では、くじを引くたびに歓声とため息が交錯し、上位に進むにつれてドキドキ感も高まったのではないのでしょうか。

フィナーレは『サライ』の合唱。ステージでは先生方と職員によるパトリレーに始まり、最後は参加者が一体となり大合唱になりました。最後に中村秀幸先生の閉会挨拶により閉宴となりました。

このビアパーティーは、年に一度の医師会全体での交流の場。今夏の良き思い出として刻んでいただければ幸いです。

実行委員長 清和 聡彦





初めてのビアパーティーは、余興がうまくいかどうか不安と緊張でいっぱいでした。

今年の新人は11人と多く、全員そろって練習をする時間はほとんどありませんでしたが、仕事終わりに集まれる人で毎日集まり、1ヵ月間猛特訓しました。

出番が近づくにつれ緊張は高まりましたが、ステージに立ち、曲が流れると、練習の甲斐あって間違えることなく、そして楽しく踊ることができました。

今回の余興を通して、同期との仲も深まり、とても楽しい時間を過ごすことができました。

最後になりましたが、実行委員の皆様、本当にお疲れ様でした。

庄内地区健康管理センター 健診課
菅原 真依



期 日：平成23年7月30日(土)
場 所：介護老人保健施設みずばしょう

みずばしょう夏祭り

平成23年7月30日(土)、夏の恒例行事として第7回みずばしょう夏祭りを開催いたしました。お蔭様で心配しておりました天候にも恵まれ、ご利用者、ご家族、地域の住民の皆様など大勢の方々からご参加をいただき盛大に開催することができました。

午後6時の上野管理医師による開会の挨拶で始まり、羽黒太鼓子供クラブによる太鼓、柏樹会の踊り、念珠関弁天太鼓創成会の力強い演奏を披露していただきました。今年はさらに職員による新人余興、太鼓、影絵を披露させていただきました。また、屋台では、焼き鳥、ラーメン、玉こんにゃく、各種飲み物等盛り沢山の品々を用意し、前売り券の売れ行きがのびなかった分、当日券が予想以上に売れ、ボランティアの職員は大忙しでしたが、大変好評でした。

最後は、みずばしょう夏祭り恒例の花火を打ち上げました。今年のテーマは「復興・祈り」。

3月の東北地方太平洋沖地震で被災されました方々に同じ東北人として心から追悼、復興を祈りながら盛大に打ち上げさせていただきました。必ず、思いは届いていると信じています。

ご協賛いただきました医師会会員の先生方、事業所の皆様、職員の方々に改めてお礼申し上げます。また、医師会他事業所の職員からもお手伝いをいただき、大盛況のうちに終了することができました事を心から感謝いたします。

介護老人保健施設 みずばしょう 事務長 若木 敬一



マイペット & マイホビー

— 第73回 —

私の好きな映画10本

木根淵 智子

ある雑誌で「今こそ見たい元気が出る映画」という題名で、100本の映画を紹介していました。映画が好きな私はどんな映画がでているかな、と思い読み、更に見た本数を数えた所、自分の予想に反して28本しかみていない事がわかりました。

これでは映画が趣味と堂々と言えないため、映画が好きに変更しました。また読みながら、この映画は私も好き、これは全然面白くなかった、などと考えながら読み進めると、私の好きな10本というリストを作りたくなかったため、今回はせつかく執筆の機会をいただいたので、簡単なエピソードを付けながらそれを紹介させていただくことにしました。

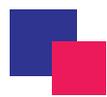
1 「ショーシャンクの空に」銀行員のアンディ（ティム・ロビンス）は妻と妻の愛人を殺害したという冤罪で服役することになり、その刑務所内を脱獄するまでの生活が描かれている。レッド（モーガン・フリーマン）との心温まる交流や、刑務所内の図書館を充実するために6年もの間毎週手紙を州議会におくり、ついに州議会から本やレコードが届く、といった、冤罪による悲惨な生活の中でも希望を失わず生きていく姿が描かれている。ちなみに6年間手紙を送り続けた州議会の返事の手紙の内容は「本を送りました。もう手紙は不要」でした。2 「ドライビングミスデイジー」 3 「ブロークバックマウンテン」 4 「ダークナイト」ダークナイトは従来のバットマンシリーズとは全く異なり、いわゆるアメリカン・コミック映画がほとんど見られない私でも感動した映画でした。ブロークバックマウンテン、ダークナイトにそれぞれ出演していたヒース・レジャー（28歳没）はオーストラリア出身の俳優で、2作品でも演技が素晴らしく、この映画（完成された）を最後に演技が見る事ができないのは実に残念で痛ましく思います。

5 「ウォーリー」全編CGの長編アニメでロボットが主役の映画です。29世紀の地球が舞台で、ごみだらけで環境汚染が進んだ地球に見切りをつけ、人類が宇宙に去ってしまい、空っぽとなった地球で、たった1人真面目に膨大で巨大なごみ処理を続ける小さなウォリーの生活から始まり、冒険を描いています。この映画は「言葉」があまりなくロボット達が発する効果音のみで話がすすんでいきますが、あきることなく見入ってしまう映画です。6 「ホット・ファズ・俺たちスーパーポリスマン」 7 「処刑人」ホット・ファズ、処刑人は娯楽映画で、ホット・ファズは推理小説とコメディがミックスされた映画でとにかく楽しめます。処刑人は主役の2人が、細かい説明がなく、また気にせず、さっさと悪人をこらしめていくため、イライラがつるときに見るとすっきりするかもしれません。処刑人の監督はこの主役のキャラクターに良く似た喧嘩っ早い方で、この脚本を作っている時は普通のバーテンダーだったそうです。8 「レント」ブロードウェイのミュージカルを映画化したもので、ブロードウェイの初代主要キャスト8人が2人を除いてそのまま映画に出演しています。1989年のニューヨークのイーストヴィレッジが舞台で、その中で生きる8人の若者の話です。昨年主要キャスト2人が日本にきており、コンサートを開催していました。残念ながら行けませんでした…。9 「リトル・ミス・サンシャイン」 10 「ラブソングができるまで」

以上10本を今の「私の好きな10本」に挙げてみました。候補はまだたくさんあります。これを書いている最中ですが、やっぱりこっちなーと何度も入れ替えがありました。

おそらく今後も好きな映画は入れ替わっていくでしょう。

それを楽しみにしています。



大切な本・思い出の曲

No. 20

ヘンデルのメサイア

美咲クリニック 今野俊幸

このコーナーはいつも楽しく拝見させていただいていますが、ついに、それも突然、私に原稿依頼が来てしまいました。過去を振り返ることなど殆どせずに生きてきたので、このテーマは私にとって非常に重いものでした。「大切な本・思い出の曲」…ウーム。

本と曲の両方の命題を満たすもの…、「ヘンデルのメサイア」以外にはないな…。

今年3月4日、新潟大学教育学部名誉教授久住和磨氏が急逝されました。

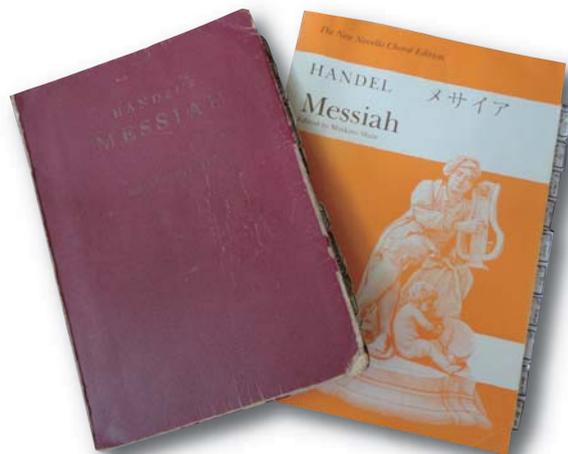
私の音楽の師匠の死。私の音楽を支える糸が切れたような衝撃を受けました。私もそろそろ過去を語る時期に来たのでしょうか。

メサイアとの出会い

あの頃の私は「歩くジュークボックス」といわれたこともあるほど、無類の歌好きでした。いまの若い方はジュークボックスなんて知らないでしょうね。大学1年生の時、2年先輩の渡辺行雄氏（現富山医科薬科大学耳鼻科教授）に誘われ、久住和磨教授の率いる「新潟大学コーラアカデミー」に入会しました。

新潟大学コーラアカデミーは教育学部音楽科の学生を中心とした合唱団で、コーラアカデミー活動は音楽科の授業の一部でした。男声不足から私も入れてもらったのですが、さすが将来の音楽の先生を目指す学生たちで、合唱も相当高いレベルでした。私は医学部の授業のない土曜日の午後には教育学部に行き久住教授の授業を聴講したり、個人的にも先生のご自宅に通って声楽のレッスンを受けたりして、セミプロのみんなに追いつこうと頑張ったものです。

久住教授の指導のもとで宗教曲を中心に色々な音楽を学び、演奏をしましたが、メサイアは



1968年から毎年12月に演奏するようになりました。当初は新潟大学コーラアカデミーとして、11回目からは一般市民を含めた新潟メサイア合唱協会を母体として、昨年まで43回公演されています。私は幸運にも第1回から連続11回参加し、その後は仕事上参加できない年が続きましたが、それでも35回目から37回目までは鶴岡から新潟まで電車で練習に通っては公演に参加していました。

メサイア公演参加の醍醐味は、全曲を通すと休憩なしでも2時間半かかる大曲を歌い上げたときの達成感、充実感でしょう。聴く方も演奏する私たちの方も体力勝負でした。もう一つは、なんといっても東京芸大出身者中心に構成されているアンサンブルやソリストたちと生共演ができ、その後の懇親会でプロの音楽家たちとコミュニケーションできたことです。

オラトリオ「メサイア」について

メサイアを知らなくても「ハレルヤコーラス」をご存じの方は多いと思います。ハレルヤコーラスはメサイア第2部の最後に歌われています。

メサイア

メサイアとは、ヘブライ語で「油注がれし者」

と言う意味です。ユダヤの人々はこの言葉を、神から特別な権威を授けられた者としての王、司祭、預言者を指す言葉としていました。王、司祭、預言者は「油注ぎ」の儀式を経て特別な聖職に携わっていたからです。

その後ユダヤでは、ソロモン王の絶頂期以降の北イスラエルの滅亡や南ユダ捕囚などの悲運の状況から自分たちを解放するもの、「救世主」の意味で用いられるようになりました。メサイアのことをギリシャ語でクリストゥス（英語表記でCHRISTOS）といい、救世主イエス・キリストのことを意味します。

オラトリオ

メサイアが分類されているオラトリオという曲種は、舞台装置、衣装、所作がないオペラともいえるものです。

オラトリオとは、本来教会の祈祷室（オラトリウム）で宗教上の物語をわかりやすく「娯乐的」に伝えるための音楽作品ですが、ヘンデル

のメサイアは「オラトリオ」に分類されてはいるものの、教会ではなく、オペラを演奏する劇場で演奏されるために作曲されています。

「メサイア」は3部構成になっていますが、第1部が「救世主生誕の予言と、降誕」（21曲）、第2部が「受難と贖罪そして復活」（23曲）、第3部が「この世の終焉と最後の審判、永遠の生命」（9曲）とイエス・キリストの生涯の中で三つの大きな出来事だけを取り上げています。第3部は生涯の出来事というよりは後世の人の信仰というべきかも知れません。

大切な本

いまも手元にメサイアを習い始めたときの楽譜が残っています（写真）。カバーをつけて使ってはいましたが、もうボロボロです。全曲を暗譜するほどに繰り返し繰り返し使いました。公演用に新しい楽譜をさらに2冊買いましたが、この汚れ果てた、最初の1冊は手放せません。

新入会員の紹介



氏名：正岡俊明

生まれた所：神奈川県横浜市 育った所：東京都杉並区

勤務先・診療科名：鶴岡市立荘内病院・呼吸器外科

出身学校・在籍教室：山形大学医学部 第二外科

趣味・特技：温泉めぐり

鶴岡地区医師会員の皆さんへ一言：お役に立てるよう頑張ります。よろしくお願い致します。

医師会 ニューフェイス

①氏名 ②所属
③趣味・特技 ④ひとこと



- ① 佐藤康之
- ② 在宅サービスセンター 訪問看護ステーション
ハローナース 理学療法士
- ③ 読書
- ④ 気づきと経験をモットーに
がんばります。



- ① 齋藤佳奈子
- ② 荘内地区健康管理センター
臨床検査課 臨床検査技師
- ③ フラダンス、ソフトボール
- ④ 一日でも早く仕事を覚えられる様に、
精一杯頑張りたいと思います。
どうぞよろしくお願い致します。

表 紙

「 精霊流しの浜辺 」

林 順 一

精霊流しは盂蘭盆の最後の夜、7月15日に行なわれる。わらや木で造った舟に供物を灯籠とともに乗せて、先祖や海での死者の精霊を弔い、送り出す。砂浜では、家族、子供たちが花火に歓声をあげる。

編 集 後 記

もうすぐ旧盆の時期となります。あっという間の7ヵ月間でした。

今年はこちらまでの時間の経過が例年より特に早かったように思われます。

3月の東日本大震災、リビアでの戦乱、ノルウェーでの銃乱射事件、中国での高速鉄道の事故、世界中で多くの貴重な生命が失われました。

私事で恐縮ですが、私の母親が今年2月に他界しました。その時はもちろん母にはもっと長生きしてもらいたかったという気持ちはありましたが、それから一ヵ月もしないうちに次々といろいろな事件が起こり、こんな辛いことを見聞きしないで旅立てたのは、母にとってはむしろ幸せだったのかもしれないと感じております。

私の好きな宮沢賢治の話に「銀河鉄道の夜」がありますが、あの話の中にジョバンニとカムパネルラが乗っている列車に、海水でびしょぬれの青年と6才の男の子と12才の女の子が乗車してくる場面があります。そして彼等は他の大勢の乗客と共にサウザンクロス駅に下車していきます。今年私の母を含めて大勢の人が銀河鉄道に乗り、また降りていったに違いありません。当院にも大震災で避難してきた妊婦さん、また新しい職員もおおり、親しい方を亡くされた患者様や関係者も大勢いらっしゃいます。多くの人々にとって亡き家族、親類、友人をお迎えする新盆であり、今年のお盆は特別なお盆のような気がいたします。

新健診センターは7月10日に竣工祝賀会をおこない、健診も順調に伸びているようです。そして何よりも、「健診センターいぐなってよかったのう」「食事もうまぐで、ホテルみたいだのう」と利用者の皆様からお褒めの言葉を頂くと、何回も建設委員会を行って細部まで詰めた甲斐があったとほっとしております。ただ、建物が新しいのは今だけです。結局は中で働く人たちが利用者の評価となるのですから、そのことを肝に銘じて常に向上心を持った組織でありたいと思っております。

最後に今まで薬剤がなく、投与を中止しておりました「子宮頸癌ワクチン」がやっと投与できるようになりました。しかしこの6ヵ月のブランクで、高校一年生は9月末までに第一回目のワクチンを投与しないと来年3月の期限までに3回目の投与を受けられなくなってしまいます。頸癌ワクチンは投与すれば病気を防げるというものではありません。20才以降の癌検診受診が病気の予防には必須です。ワクチンを投与する予定の病院は、若年者の癌検診率を向上させる千載一遇のチャンスを逃すことのないように、ワクチンを打ちっぱなしにするのではなく、啓蒙の方も是非是非お願いしたいと思います。そうでないとワクチンのために逆に子宮頸癌で死亡する人が増えてしまう結果になりかねません。

(斎藤 憲康)

編集委員：上野 欣一・中村 秀幸・伊藤 末志・福原 晶子・斎藤 憲康・阿部 周市・高橋 由至

発行所：社団法人鶴岡地区医師会 山形県鶴岡市馬場町1-34

TEL 0235-22-0136 FAX 0235-25-0772 E-mail ishikai@tsuruoka-med.jp

URL <http://www.tsuruoka-med.jp>